

## 【研究論文】

# 国語科「読むこと」物語でのICT機器を活用した授業実践 －新美南吉作品を読んで、登場人物の気持ちの変化をとらえ、紹介文を書こう－

古川元視

## 1 GIGAスクール構想の経緯について

今年度から小学校では、GIGAスクール構想において1人1台の端末が配布され、各教科等においては積極的な活用が期待されている。

まず、GIGAスクール構想に関する国の動きを確認する。

年	内容
2016.12.21	中央教育審議会答申
2017.3	学習指導要領告示
2018.6.15	教育振興基本計画
2018	経済産業省「未来教室」
2019	新時代の学びを支える先端技術活用推進方針（最終まとめ）」
2019	学校教育の情報化の推進に関する法律
2019	教育の情報化の手引き
2020	教育の情報化の手引き 追補版
2020	GIGAスクール構想の実現について
2020	各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について
2021	令和の日本型教育の構築を目指して 答申
2021	学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する資料
2021	GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について
2021	中央教育審議会「令和の日本型教育」の構築を目指して（答申）【総論解説】
2021	【参考資料1人1台端末の活用などに関する説明資料例（改訂版）

このような中、国語科「読むこと」の物語でのICT機器を活用した授業を実践した。

## 2 国語科「読むこと」物語でのICT機器を活用した授業実践

－新美南吉作品を読んで、登場人物の気持ちの変化をとらえ、紹介文を書こう－

### (1) 本単元の学習指導案について

ICT機器を活用する授業を行うにあたり、学習指導案の書き方も次のとおり、変える必要がある。（一部掲載） ICT機器活用部分

#### 1 単元名

新美南吉作品を読んで、登場人物の気持ちの変化をとらえ、紹介文を書こう

#### 2 児童 明星小学校 4年2組 36名

#### 3 日時 令和3年9月1日（水）～15日（水） 全15時間

#### 4 教材

##### (1) 中核教材

「ごんぎつね」光村図書

##### (2) 副教材

『てぶくろを買いに』『木の祭り』『でんでんむしのかなしみ』青空文庫のデジタルテキスト

##### (3) 補助教材

学習計画と振り返りシート、振り返りのポイントシート、場面の展開と場面の変わり目のポイントシート、登場人物の気持ちを捉えるためのポイントシート、登場人物の気持ちの変化を捉えるワークシート、登場人物の気持ちの変化を表す心情曲線のワークシート、3種類の紹介文のモデル、紹介文の要素・構成要素のポイントシート、手紙を書くポイントシート、チェックシート

#### 5 学習用具

##### (1) タブレット

IPAD (apple), pages

##### (2) ノート

デジタルノート（ロイロノート）

(3) 文房具及び筆記用具

キーボードによるタイピング

(4) 板書

電子黒板

6 単元について

(1) 学習の系統と児童の実態(中略)

(2) 教材観（中略）

(3) 指導観

第一次では、まず、今まで書いたことがある紹介文を振り返り、どんなことが難しかったのか整理させる。そして、教師などが書いた紹介文をロイロノートの資料箱から取り出して読んだり、他県の4年生から送られてきた紹介文を読んだりすることで、紹介文を書きたいという気持ちを高めたい。青空文庫にある新美南吉の作品をロイロノートの検索機能を使い、取り出して読ませる。学習課題や学習計画を話し合っ

てまとめていく授業は、初めてのことなので、教師がやり方を示し、丁寧に指導をしたい。  
第二次では、並行読書として保存機能を使い資料箱に保存した新美南吉の青空文庫の3作品を課外で読ませる。同じ作品を保存しておくことで、同時に読むことが可能となる。教師が作成した紹介文を分析させることで、紹介文の要素を把握させる。ワークシートは、題名の付け方、登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりが一目で分かるように、教材文を1枚に収めたものを使う。後方の児童には、それが見えにくくなる場合は、電子黒板でピンチインした教材文も用意する。冒頭部は、主人公の紹介を描いているので、ロイロノートのカードを使って、「ごんぎつね」がどのような境遇のきつねなのかを書きかえをしてとらえさせる。登場人物の気持ちのずれについては、ロイロノートを使い、登場人物の気持ちの変化に印を付けさせて心情曲線を描かせて十分に考えさせたい。「兵十」は、神様のしわざかもしれないと思っているのに、なぜ、「ごん」は「兵十」につぐないし続けたのかについて、終結部を読んで、自分ならどのような終結にするのか、また、その理由を考えさせ、作者にどんなことを言いたのかを児童一人一人にまとめさせる。

第三次では、並行読書から選んだ作品の紹介文を友だちと相互評価し合うようにする。また、保護者にも読んでもらい、評価してもらおう。最後は、単元の評価として、紹介文の書き方、登場人物の気持ちのとらえ方などについてチェックシートにまとめ、写真を撮り、タブレットのロイロノートの資料箱に保存し、いつでも確認ができるようにする。(中略)

7 単元の指導目標

- (1) 同じ作者の作品を複数読むことができる。
- (2) 場面の移り変わりや、登場人物の気持ちの変化と結び付けて読み取ることができる。
- (3) 特徴のある作者の作品を読み、紹介の要素を入れた紹介文を書くことができる。

9 単元の授業過程

	学習活動
第一次 (1)~(2)	<p>① これまでに書いた紹介文を思い出し、書いた内容や難しかった点をグループで出し合い、全体で整理する。</p> <p>② 教師が作成した3種類の紹介文をロイロノートの資料箱から取り出して読み、他県の4年生から、書いた紹介文を送って欲しいという依頼の承諾を決定する。【紹介文のモデル】&lt;タブレット・ロイロノート&gt;</p> <p>③ 電子書籍の青空文庫をインターネット検索して、新美南吉作品『てぶくろを買いに』『木の祭り』の2作品及び教師から送信された『でんでんむしのかなしみ』を資料箱に保存し、簡単な感想を交流する。&lt;タブレット・ロイロノート&gt;</p> <p>④ 学習課題「新美南吉作品を読んで、登場人物の気持ちの変化を読み取り、感想や粗筋などを入れた紹介文を送ろう」を設定し、学習計画を話し合う。【学習計画表】</p>
第二次 (3)~(12)	<p>⑤ ロイロノートの資料箱に保存した新美南吉の3作品を並行読書する。&lt;タブレット・ロイロノート&gt;〔課外〕</p> <p>⑥ ②の3種類の紹介文を分析し、どのような要素が必要なのかをまとめる。【ワークシート1】【ポイントシート1】</p> <p>⑦ 教材文を1枚に収めたワークシートを黙読し、既習教材の題名の付け方を参考にして、題名が主人公の「ごんぎつね」</p>

になっていることをとらえる。【ワークシート2】

⑧ 場所や時に着目し、場面に分ける。【ワークシート2】【ポイントシート2】

⑨ 冒頭部の1場面を読み、「～小ぎつね」というように書きかえをして、ロイロノートのカードに書き、「ごん」がどんなきつねなのかをとらえる。【ワークシート2】<タブレット・ロイロノート>

⑩ 場面の移り変わりに注意して、行動、地の文、会話、情景描写から「ごん」と「兵十」の気持ちの変化がわかるところに印を付け、その時のそれぞれの気持ちを整理する。【ワークシート2】

⑪ 自分ならどんな終結にするのかやその理由も考え、作者にどんなことを言いたいのかを200字程度でワークシートにまとめ、グループで話し合い、いろいろな考えがあることをとらえる。【ワークシート3】

⑫ 教師が示した3種類の紹介文のモデルを参考に、付箋紙を使って構成を考えた後に、原稿用紙1枚程度の紹介文の下書きを書き、清書はタイピングする。【原稿用紙】

⑬ 並行読書で読んだ作品の中から1作品選び、付箋紙で構成を考え、原稿用紙1枚程度の紹介文の下書きを書き、清書はタイピングする。【原稿用紙】

⑭ 並行読書から選んだ作品の紹介文を同じ作品を選択した友だちと相互評価し合う。【評価カード】〔課外〕

⑮ 書いた紹介文を持って帰り、保護者に評価してもらおう。【評価カード】〔課外〕

⑯ 書いた紹介文を佐賀県の4年生に送る。〔課外〕

⑰ 紹介文の書き方、登場人物の気持ちのとらえ方などについてワークシートにまとめ、写真に撮り、タブレットのロイロノートの資料箱に保存する。【チェックシート】<タブレット・ロイロノート>〔課外〕

(2) 本單元におけるICT機器の活用及び身に付けたい読解力について

では、具体的に二次においてどのようなICT機器の機能を使い、どのような読解力を身に付けたいと考えたのか、実践を基に説明したい。

① 主人公の境遇を把握する

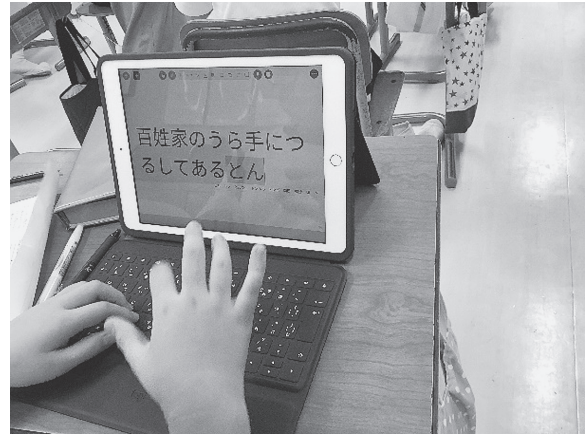


図1 書き換えたことをカードに書き、主人公の境遇の把握

中核教材である「ごんぎつね」の冒頭部には、主人公の境遇が描かれている。それを把握するために、ロイロノートのカードに、例えば「ごんぎつねという名前の小ぎつね」とか、「ひとりぼっちの小ぎつね」というように書き換えさせた。全員がスムーズにタイピングができるので、短時間で複数枚書くことができた。

② 冒頭部の主人公の紹介を把握する

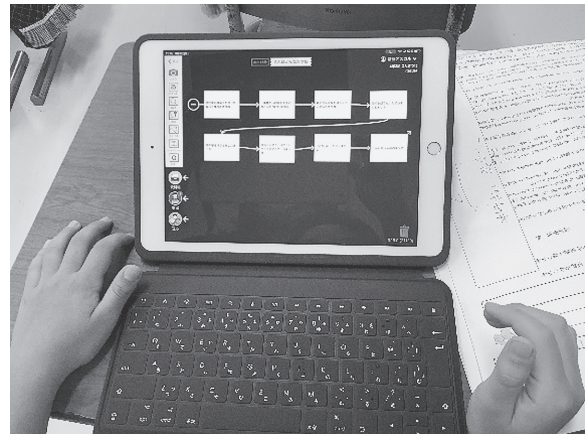


図2 書き換えたカードをトレインし、冒頭部の主人公の紹介の把握

図2は、主人公の境遇などを書き換えた複数枚のカードをロイロノートのトレイン機能を使って、繋げているところである。これを見ると、冒頭部には、主人公の紹介が描かれていることが分かる。



### ③ グループタイムで話し合いをする



図3 グループの記録者が代表で記録

グループタイムは、4人組を作り、役割を決め、建設的な話し合いをさせなければならない。全員がタブレットを持ち、話し合いをすると、タイピングすることに気持ちに移り、話し合うことがおろそかになる場合がある。今回は、グループの記録係の児童に、グループの意見を集約させるようにした。

### ④ インターネット検索機能を活用する

図4は、各自必要な時にインターネット検索機能を用いて、難解語句を検索しているところである。この機能を使う場合は、複数の検索機能を用いることを指導する必要がある。

### ⑤ 教師から配信されたポイントシートを手掛かりに登場人物の気持ちを把握する

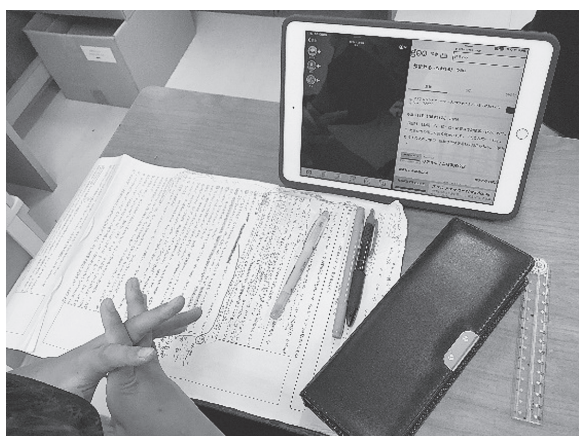


図4 ポイントシートを手掛かりに登場人物の気持ちを把握

事前に、「登場人物の気持ちは、どのようなところに表れているのか」ということを1枚のワークシートにまとめたポイントシート（知識シート）を教師から各児童に送信した。それを手元

で確認しながら、登場人物の気持ちがわかる場所にマーキングさせた。資料箱に保存することで、他の物語を学習する時や他学年での物語の学習においても何回も使うことができる。

これ以外にも、紹介文の構成モデルや文章モデルなどを送信し、各自必要な時にそれらを手元に出し、活用できるようにした。

### 3 成果と課題

読解力を身に付けるためには、いつ、どのような機能を使うのか、綿密に計画を立てる必要がある。それ以前にアクティブ・ラーニングを定着させることが基本であることを忘れてはならない。今後は、さらにICT機器を活用して読解力を高める授業研究を行っていきたい。